

マスクの中から「おはよう」「こんにちは」 今こそ「あいさつ」、地域の絆は「あいさつ」から



令和3年度「あいさつ運動標語ポスターコンクール」の締め切りが近づいています。多くの方にご参加いただいておりますが、子どもさんの標語の中に「マスク」を取り上げてくれた人がいました。

マスクでも 声を出して「おはよう」と
マスクして コロナに気を付け あいさつを

三重県（四日市市）も「緊急事態宣言」が発出されるほど、新型コロナウイルスに感染した方が爆発的に増加しました。人と接することがはばかられる事態になっています。

「人流を減らそう。」「人に合わないようにしよう。」が今の合言葉です。人が人を避けるようになってしまえば、「地域力」、「地域のコミュニティ」がますます弱くなっていくのではないかと心配します。

地域の安心安全は、この「地域力」、「地域のコミュニティ」に比例しています。

「地域の力」が強い地区では、防犯も防災も問題はありません。「地域のコミュニティ」がしっかりとれている地域では、何があっても一人で悩んだり苦しむことはありません。

私たちは地域の中で生きているのですから、地域の方々とのつながりをもっと大切にして育てていかなければならぬと思います。

そのアイテムが「あいさつ」です。

いくらマスクをしていても、ちゃんと声を出して「おはよう」「こんにちは」とあいさつすることで、この事態を乗り越えましょう。コロナに負けて、地域崩壊を起こしてはいけません。今こそ、「あいさつ運動」の真価が問われています。

みなさんお一人お一人の力を結集して一緒に「安全安心な神前地区」を作っていきましょう。



10月11日（月） 第7回 神前愛さつの日

少しはコロナも収まってくれているといいですね。10月も朝から元気に「おはよう」の声掛け活動を、地域の方々といっしょに行っていきたいと思います。ご協力をお願いします。

神前地区連合自治会

災害時、避難に自力で困難な方々への 避難支援体制を神前方式で作っていくこと になりました。ご理解をお願いします。



近年、台風や集中豪雨、地震などによる大きな被害が報告されています。その中でも自力で避難が困難な方が、避難が遅れるなどして被災されたという報告が多くされています。そこで、避難が困難な方々に対して避難時の支援を地域で取り組んでほしいという法律（災害対策基本法）ができています。

神前地区も6月10日に四日市市と「避難行動要支援者名簿に係る協定」が締結されたことを機会に、自力で避難が困難な方々へ、地域としての支援体制を構築しなければならないと考え、取り組みを始めようとしています。

ところがそこで、大きな問題があります。地域の高齢化です。支援が必要な方々がいることは分かっていますが、ではだれがその方々を支援すればよいのでしょうか。

市では、避難に困難がある方を、①障がいのある方、②要介護3～5の方、③75歳以上の人住まいの高齢者又は配偶者が70歳以上のご夫婦お二人住まいの方、と規定しています。

しかし、今の神前地区では、各町の超高齢化が進む中でこの方々全員を支援するだけの支援者を確保することは不可能ではないかと考えています。そこで、9月2日に四日市市危機管理室とともに、神前地区の各町の実情にあった方法による支援体制の構築について話し合いました。

結論として、下記の神前式支援体制（神前方式）で進めていくことを、四日市市に大筋で了承していただきました。



① 要支援者（支援が必要な方）は、「本当に支援が必要な方」に絞って決めさせてもらう。
絞って決めるための基準やルール作り、決めるための組織作りを早急に行う。

② 支援者は、個人で無理な場合、組を単位とした集団体制とする。

できるだけ個人に任せのではなく、一昔前の「向こう3軒両隣」的な意識を再度地域内に構築し、組単位ぐらいの中で支援体制を整える。

この二つの基本方針に基づき、今後住民の皆さんの理解を得ながら、又、試行錯誤しながら「神前方式」を作り上げていこうと考えています。まずは各自治会の自治会長と民生委員で協議し、総代さんや組長さん方の意見も伺いながら始めていきたいと考えております。

この支援体制は、神前地区全住民の方々が参加していただかなければ構築できません。みなさんのご理解とご協力をお願いいたします。

神前地区連合自治会・神前地区民生委員児童委員協議会

「パラリンピックって障がい者差別じゃないの？」 地区別・団体別懇談会で、こんな話題もいいかも！



9月5日（日）、東京2020パラリンピックが閉会しました。どの国の選手たちも、どのような障害のある選手たちも、全力を出し切っている姿から感動をもらいました。心からお礼を言いたいと思います。

しかし、閉会式を見ていてふと思いました。「パラリンピックって障がい者差別じゃないのかな？」って。「どうしてオリンピックと同時にしないのだろう？」って。「別にするっていうことは、障がいのある方々を別にみているってことじゃないのかな？」「それって障がい者差別じゃないのかな？」って。

だって、オリンピックの中だって、能力が違うからと言って「男女別」でやっていますよね。だったら、「男子バトミントン」「女子バトミントン」「障がい者バトミントン」っていう種目を作れば、どんな競技の中でも、障がいの方々を含めて、オリンピックだけでやっていけるんじゃないですか。「ボッチャ」って競技は、私もぜひやってみたいと思いましたからね。

今オリンピックの中でも「LGBT」の方々の位置が不安定になっていますよね。「彼（彼女）」は、「男子」として競技するのか、「女子」として競技するのか、って。新たな問題だと思いますよね。

もう少し未来になれば、「AI」が個人の様々なデータから適切な「ハンディキャップ」を「パパッ」と計算して、どんな方々も同じレースで競えるようになると思いますよ。そうなれば、初めてオリンピックの本当の形ができると思うのです。そのためにも、近い将来、「オリンピック」と「パラリンピック」は統合しておくべきじゃないのかなって思ったのですが。みなさんはどう思いますか。



普段生活をしているとき、仕事をしているとき、「これって差別じゃない？」って思うことってありませんか。何かピンとくることです。それを口に出して、お話しすることがとっても大切なことだと思うのです。なぜなら、「気づく」「話す」が「差別をなくす」につながると思うからです。「これって差別じゃないの。」って思っても、口に出さないと、何もなかったことになってしまいます。話しをすることで、自分も気づきが深くなるし、周りの人たち（お話を聞いた人たち）にも気づいてもらえると思うのです。そんな時「そんなの差別じゃないよ。」という声が聞こえてきたらしめたものです。「どうしてそう思うの。」って、話がどんどん広がり深まります。楽しい会話になると思いますね。

地区別・団体別懇談会もそんな何でも話せる会になればいいのかなって思っています。

この秋以降、コロナが収まってきたら、ぜひ懇談会への参加をご検討ください。

神前地区同和教育推進協議会

「どうして9月1日が『防災の日』なの？」 と、子ども達に聞かれたら、答えられましたか。

人間が、地球規模の大災害や人を襲う数々の動物の中で、生き抜いてこられたのは「知恵」があったからです。でもそれだけではありません。

もう一つは「正常性バイアス」という身を守る意識が、長い歴史の中で人の意識の中に作られていったからだと言われています。この「正常性バイアス」とは、「自分には最悪の事態は起こらない。」と思ってしまう本能のような意識（無意識の意識）のことです。

歴史上大災害は何度も人間を襲いました。しかし、その都度人間は、「次が起きたらどうしよう。」などと思わず、「自分は助かったから、きっと次も大丈夫だ。」と自分に思い込ませ、すぐに次の生活を始めます。「のど元過ぎれば熱さ忘れる。」「人のうわさも七十五日」等、それを表すことわざもたくさんあります。

生き抜くためには、むごい過去は忘れなければならなかつたのでしょうか。



関東大震災(がれきの町)

しかし、今は違います。持ち前の「知力」で災害から身を守ることができるようにになってきました。準備さえすれば、対策さえ講じれば、被害を減らすことができるのです。

そのためにも、生き抜くために身につけてきた「正常性バイアス」を少しでも減らさなければなりません。「無意識」に勝つためには、「正しい知識」「正しい行動」です。

1923年（大正12年）9月1日11時58分、関東大震災が発生し、死者・行方不明者100,000人以上、全壊家屋100,000棟以上に上りました。この大災害による被害を二度と起こさないために、また「正常性バイアス」に落ち込まないために、9月1日を「防災の日」として、人の「知恵」で災害に対応しようとしているのです。

「温故知新」。感染症（コロナ）も自然災害も差別も全部「正しく知って、正しく対応する。」それができるのが人間です。そして、それを支えるのが仲間です。

「防災の日」に災害の準備を確認すること（自助の準備）も大切ですが、子どもたちやご家族、地域の方々とじっくりと防災・減災について話し合うこと（共助の準備）も大切ではないでしょうか。「知恵」を使ってコロナ禍でもできる防災（共助の準備）を考えてみましょう。



神前地区自主防災協議会

市内に設置されている防災行政無線（固定系）の 試験放送を実施します

(1) 実施日時 10月6日(水)午前11時00分ころから数分程度

(2) 試験放送内容



放送機器	放送・吹鳴内容
防災行政無線 (固定系)	<p>市内全て（※）の防災行政無線（固定系）屋外拡声子局、CTY-FMラジオ放送、四日市市Sアラートから一斉に次のように放送されます。</p> <p>【放送内容】上りチャイム音(トピンポンパンポン)↑ 「これは、Jアラートのテストです。」×3 「こちらは、こうこうよっかいちです。」 下りチャイム音(トピンポンパンポン)↓</p>

地域住民の皆さんに参加していただく試験放送ではありません。

- 音声試験放送のため、サイレンは吹鳴しません。
- 351-4004（自動電話応答機能）にTELしていただくと放送内容が確認できます。※ 屋外拡声子局 市内122箇所
- 以降の試験については以下のとおり予定しています。 令和4年 2月16日(水) 11:00～
- 気象状況その他の理由により中止する場合があります

問合せ 四日市市 危機管理室 TEL 354-8119

『脳卒中』とは

脳卒中は頭の中の血管に起る病気で「がん」「心筋梗塞」「肺炎」について、日本人の死亡原因の4位となっています。死亡原因では4位ですが、寝たきりになってしまう原因としては、1位の病気です。

アレッ?!おかしいと思ったら“動かしてはいけない”は間違います。できるだけ早く救急車で専門の病院へ行く!!一番症状にあった治療法を速やかに受けることが重要です。



ひとつでも突然これらの症状が出たら脳卒中である可能性は70%だと言われています。病院では「t-PA」（血液のかたまりを溶かす薬）を使用できます。

この薬は発症後4時間半以内という時間制約があります。（使用に適さない場合もあります）そのためには少しでも早く病院に搬送する必要があります。

中消防署中央分署 TEL 325-4717

四日市市こども子育て交流プラザへ 遊びに行こう！！



TEL 330-5020 FAX 334-0606

HP <http://cocoplaza-yokkaichi.jp/>

所在地 四日市市東新町26番32号 橋北交流会館4階

【開館時間】

<第1部>9:00～11:30 <第2部>12:30～14:00 <第3部>15:00～17:00

各部の間に消毒を行います。その間、施設の利用はできません。

【主なイベント日時・内容】

10月 4日(月) ～ 10月 17日(日)	10:00～11:30 12:30～14:00 15:00～16:30	ハロウイングッズをつくろう ねこの仮面をかわいくお絵描きしよう。	対象/0歳～18歳までの子ども (未就学児は保護者同伴) 定員/材料がなくなり次第終了
10月 17日(日)	10:30～11:30	家族対抗ゲーム合戦 オセロやボードゲーム、カードゲームなど、家族同士で対戦しよう！！	対象/どなたでも 定員/先着 20名
10月 23日(土)	12:30～13:30 15:00～16:30	プラザなぞとぎ「魔女からの招待状2」 今年も魔女からハロウィンパーティーの招待状が届いたよ。招待状に隠された暗号を解きあこう。	対象/小学生 定員/1グループ5名まで ※所要時間は30分～1時間です。時間内にお越しください。
10月 30日(土) 31日(日)	10:00～11:30 12:30～14:00 15:00～16:30	ハッピーハロウィン in プラザ 合言葉（あいことは）をスタッフにつたえよう。なにかいいことがあるかも？！	対象/0歳～18歳までの子ども (未就学児は保護者同伴) 定員/景品がなくなり次第終了

料金 無料

※新型コロナウイルス感染症対策のため、運営内容を変更する場合があります。開館状況、イベント実施状況など詳しくは、ホームページをご覧いただくか、電話にてお問い合わせください。

感染症対策へのご協力をお願いします

